2023年7月15日発行

大町山岳博物館友の会 第 196 号

ゆきつばき通信



行事のご案内 (共催事業)

友の会 45 周年記念行事

講演会「山が教えてくれたこと」

講師 三戸呂拓也氏(登山家 大町市出身)

大町市出身で、現在国立登山研修所講師を務め、アラスカ・デナリ(標高 6,190m、2010 年・2011 年・2015 年登頂)、アルゼンチン・アコンカグア(標高 6,960m、2011 年登頂)、パキスタン・ガッシャーブルム II(標高 8,035m、2019 年登頂)など数々の登攀を成し遂げてきた登山家・三戸呂拓也(みとろたくや)氏を講師に、「山が教えてくれたこと」と題し、講演会を開催します。



《期 日》 令和5年9月2日(土) 15:00~17:00 ※開場は、14:30~

《場 所》 サン・アルプス大町 2階大会議室 (大町市文化会館となり)

《対象定員》 どなたでも参加できます。定員 150 名(先着順)

《講師》 三戸呂拓也氏 (登山家 国立登山研修所講師)

《参加費》 無料

《申し込み》 8月31日(木)まで 大町山岳博物館へ電話、ファックス、メールにて 応募してください。(メール sanpaku@city.omachi.nagano.jp)

友の会 45 周年記念行事 記念登山

「三戸呂拓也と行くフィールドゼミナール 一鷹狩山トレッキングー」

前日に講演をいただく三戸呂拓也さんの案内で、山岳博物館から鷹狩山への記念登山を行います。コーディネーターとして長野県山岳協会副会長の大西浩氏をお迎えして、山行途中に三戸呂さんより仕事や北アルプス登山の思い出を語っていただき、山の子村では"山の食事"を楽しみたいと思います。また登山後には博物館において、登山装備などのお話をうかがいます。

《期 日》 令和5年9月3日(日) 9:00~15:30 ※受付時間 8:45~※小雨決行、荒天の場合は、博物館の中で短縮して開催致します。

《場 所》 山岳博物館駐車場(集合)~鷹狩山~山の子村~山岳博物館(見学) 鷹狩山山頂には11時頃から12時前、山の子村には12時半頃から14 時頃の予定

《対象定員》 中学生以上~一般、20名 (定員になり次第締め切ります)

《講師》 三戸呂拓也氏 (登山家 国立登山研修所講師)

《参加費》 1名につき1,000円(保険料、昼食*1 込み)

《持 ち 物》 雨具(折りたたみ傘もご用意ください) 帽子 サングラス 筆記具 行動食 飲み物 必要に応じて、防寒具 *お持ちの方は、山行用 食器類

《申し込み》 8月5日(土)~8月20日(日)の間に、山岳博物館へ電話、ファックス、メールにて応募してください。(メール sanpaku@city.omachi.nagano.jp)

《当日連絡》 090-1217-9197 (丸山卓哉 山間地でつながりにくい場合があります) *1 おなかいっぱいにはならないかもしれませんが、簡単な山食を体験いただきます。

イベント等のご案内

ワクワクチャレンジ教室「夜の虫をかんさつしよう」

夏の夜、元気に活動する虫たちを、「トラップ」で集めてじっくり観察してみよう!

日時:7月27日(木) 19:00~21:00

場所:大町公園周辺

募集人員:20名 対象:小学生 費用:無料 申し込み:長野県山岳総合センター公式サイト

https://www.sangakusogocenter.com/



報告 │ 自然観察会 栂 池 自 然 園 (part1)

《期 日》 7月9日(日) 午前9時~午後3時

《場所》、栂池自然園周遊

《参加者》 17名(講師・役員含む)

《講師》 千葉悟志学芸員

時々雨の降るあいにくの天気でしたが、野山には 雨が必要です。

なだらかなイメージのある栂池自然園ですが、ビジターセンターから展望台までは標高差が 160m 余りあります。今回は中間の浮島湿原でお昼を食べて引き返しました。展望台まで行くと地形も変わっていろいろな植物がみられるのですが、今回は湿原主体に70種くらいの植物を観ることができました。

湿原は、1855m前後の"みずばしょう湿原"と"わたすげ湿原"、途中一段上がって1910m前後の"浮島湿原"、だんだん上がって2010mの"展望湿原"が主な湿原の区域です。湿原は、もともとあった排水不良の平坦地に植物の枯れたものが堆積してできたもので、寒冷のため分解速度が遅くその上に新たな植物が生育していきます。高層湿原という一段高い部分は、雨水が貴重な水源になっています。

なぜこんな山の中に平坦地や窪地があるのか(山 に池はつきものですが)、栂池(なぜ栂池というのだ





ろう?・・・オオシラビソをツガと呼んでいたらしい)は地質構造や地すべりのため平 坦地ができやすかったためだといいます。土砂の供給源でもある小蓮華の山腹は今で も崩壊し、稜線が低くなっているようです。足元の地盤も、地すべりで運ばれてきた ような礫を含んだ赤土や、巨礫が重なり合った尾根があったりして(風穴;冷気の影響 で植物が違っている)、すべてが泥炭の黒土ではありません。

みずばしょう湿原からわたすげ湿原ではミズバショウは北側を中心としますが、もうすっかり大きくなっています。ハクサンチドリやヒオウギアヤメ、ミヤマキンポウゲが多くみられました。

両湿原の間には風穴帯があって、明らかに涼しい風が吹きます。植物も水から離れて、キヌガサソウが目につきます。

2023 栂池自然園植物リスト (つぼみ・開花・果実) 1

	科名	種名	大 態		/ ** ±/
No.			7月2日	7月9日	備考
1	マツ	オオシラビソ	果実	果実	
2	サトイモ	ミズバショウ	果実	果実	
3	シュロソウ	キヌガサソウ	開花	開花	
4	シュロソウ	エンレイソウ	果実	果実	
5	シュロソウ	コバイケイソウ	開花	開花	
6	ユリ	タケシマラン	開花	開花	
7	ユリ	オオバタケシマラン		開花	
8	ユリ	タマガワホトトギス	つぼみ	つぼみ	栂池ロープウェイ乗り場周辺
9	ユリ	クルマユリ	つぼみ	開花	
10	ユリ	オオウバユリ		つぼみ	栂池ロープウェイ乗り場周辺
11	ラン	ハクサンチドリ	開花	開花	
12	ラン	ノビネチドリ	開花	開花	
13	ラン	コバノトンボソウ		開花	
14	ラン	ホソバキソチドリ		開花	
15	アヤメ	ヒオウギアヤメ	開花	開花	
16	ワスレグサ	ゼンテイカ	開花	開花	
17	ネギ	ギョウジャニンニク	開花	?	生育地未到達で状態不明
18	キジカクシ	オオバギボウシ	つぼみ	?	生育地未到達で状態不明
19	キジカクシ	マイヅルソウ	開花	開花	
20	キジカクシ	ヤマトユキザサ	開花	開花	
21	キジカクシ	ヒロハユキザサ	開花	開花	
22	カヤツリグサ	ワタスゲ	果実	果実	
23	カヤツリグサ	オオカサスゲ		開花	
24	カヤツリグサ	ダケスゲ		果実	*1
25	カヤツリグサ	ヒメカワズスゲ		開花	
26	カヤツリグサ	カワズスゲ?		果実	*2
27	イネ	イワノガリヤス		開花	
28	メギ	サンカヨウ	開花・果実	果実	
29	キンポウゲ	リュウキンカ	開花	果実	
30	キンポウゲ	ミツバオウレン	開花	果実	
31	キンポウゲ	シラネアオイ	開花	果実	
32	キンポウゲ	ミヤマキンポウゲ	開花	開花	
33	キンポウゲ	カラマツソウ	開花	開花	
34	キンポウゲ	ミヤマカラマツ	開花	開花	
35	キンポウゲ	モミジカラマツ	開花	開花	
36	キンポウゲ	シナノキンバイ	開花	開花	
37	ユキノシタ	ヤグルマソウ	開花	開花	
38	ユキノシタ	ズダヤクシュ	開花	開花・果実	
39	ユキノシタ	アラシグサ	つぼみ	開花	
40	マメ	イワオウギ	つぼみ	?	生育地未到達で状態不明
and Eli		+わチフゲレサ方士ス		ハハリガサチ	31 1 ± 1/

^{*1 「}栂池自然園ではヤチスゲと共存する」日本カヤツリグサ科植物図譜

^{*2} 永松 大氏(鳥取大学)の見解によればカワズスゲ

2023 栂池自然園植物リスト(つぼみ・開花・果実) 2

		T	JIN AE			
No.	科名	種 名	状 7月2日	態 7月9日	備考	
41	バラ	ヤマブキショウマ	つぼみ	開花	栂池ロープウェイ乗り場周辺	
42	バラ	タカネザクラ	開花	果実		
43	バラ	オニシモツケ	つぼみ	つぼみ		
44	バラ	カラフトダイコンソウ	開花	果実		
45	バラ	ベニバナイチゴ	開花	開花		
46	バラ	チングルマ	開花	果実		
47	バラ	ウラジロナナカマド	開花	開花		
48	ニシキギ	クロツリバナ	開花	開花		
49	カタバミ	コミヤマカタバミ	開花	開花		
50	トウダイグサ	タカトウダイ	開花	?	生育地未到達で状態不明	
51	スミレ	キバナノコマノツメ	開花	開花		
52	スミレ	ミヤマツボスミレ	開花	開花		
53	フウロソウ	グンナイフウロ	開花	?	生育地未到達で状態不明	
54	ムクロジ	ミネカエデ	開花	開花		
55	ムクロジ	オガラバナ	開花	開花		
56	タデ	イブキトラノオ	つぼみ	つぼみ		
57	タデ	タカネスイバ	開花・果実	開花・果実		
58	ミズキ	ゴゼンタチバナ	開花	開花		
59	サクラソウ	ツマトリソウ	開花	開花		
60	サクラソウ	ハクサンコザクラ	開花	?	生育地未到達で状態不明	
61	イワウメ	イワカガミ	開花	開花		
62	ツツジ	クロウスゴ	果実	果実		
63	ツツジ	クロマメノキ	果実	開花		
64	ツツジ	オオバスノキ	開花	開花		
65	ツツジ	ミヤマホツツジ	つぼみ	つぼみ		
66	ツツジ	サラサドウダン	開花	?	生育地未到達で状態不明	
67	ツツジ	コヨウラクツツジ	開花	開花		
68	ツツジ	イワナシ	開花	つぼみ		
69	ツツジ	アカモノ	開花	開花		
70	リンドウ	タテヤマリンドウ	開花	開花		
71	オオバコ	テングクワガタ	開花	果実		
72	ハエドクソウ	オオバミゾホオズキ	開花	開花		
73	ミツガシワ	イワイチョウ	開花	開花		
74	キク	ヒトツバヨモギ	つぼみ	つぼみ		
75	キク	クロトウヒレン	つぼみ	?	生育地未到達で状態不明	
76	キク	オタカラコウ	つぼみ	開花		
77	スイカズラ	オオヒョウタンボク	つぼみ	開花		
78	スイカズラ	ハクサンオミナエシ	つぼみ	?	生育地未到達で状態不明	
79	スイカズラ	タニウツギ	開花	?	生育地未到達で状態不明	
80	セリ	オオハナウド	開花	?	生育地未到達で状態不明	
81	セリ	ハクサンボウフウ	開花	開花		

千葉学芸員作成



わたすげ湿原から楠川を越えて浮島湿原までは山道となります。シナノキンバイが今日は一株見られました。道端にはアカモノやイワカガミ、ゴゼンタチバナやマイヅルソウなどがたくさんあります。

この間の道は、角礫を含む粘土で、 地すべりでできたものです。

浮島湿原ではゼンテイカがきれい

になってきました。オオシラビソが近くで観察でき、雌花雄花を確認しました。

ルートを通して、コバイケイソウ、イワイチョウ、ヒロハユキザサなどが多くみられました。

栂池自然園は、友の会でも発足2年目に自然観察を行っているだけあって、見ごた えのあるところでした。

今回ご指導いただいた千葉学芸員、会員の皆さんに感謝申し上げます。

(担当役員 記)



イベント等のご案内

長野県環境保全研究所 自然ふれあい講座

「みんなで温暖化ウォッチ セミのぬけがらを探せ!」

(1) 大町公園でセミの抜け殻を集めます。(2) 集めた抜け殻を種類ごとに分類して数えます。(3) セミの生息環境と地球温暖化の関係について考えます。

日時:令和5年8月1日(火) 10:00~正午 場所:大町公園・当館周辺

募集人員:20名(先着順) 対象:小学生とその保護者 費用:無料

募集期間:令和5年7月3日~7月30日(定員になり次第締め切り)

申し込み:ながの電子申請サービス(長野県)で受け付けます。

下記 URL にアクセスし、申込をお願いいたします。

https://s-kantan.jp/pref-nagano-u/offer/offerList_detail.action?tempSeq=32365

備考:主催:長野県環境保全研究所(山博共催)



烏帽子の会

活動報告 《西山城址》

《月日》5月27日(土) 《天気》晴れ 《参加者》21名

《コース状況・感想》

西山城址保存会の皆様により、落葉かき、階段の 手入れ等とてもよく整備され歩きやすい道、今日も 保存会の方が手入れをされていました。

東屋のある三の曲輪までは九十九折りのやや急登ですが、久々の山の方もありゆっくり登りました。新緑の中を5月の風がさわやかに吹き抜け、桜やつつじの花が満開の頃は本当に美しかったであろうことを想像しつつ歩きました。三の曲輪からは比較的緩やかな登りで、何ヶ所か深い空堀があります。足元のギンリョウソウに感激「あ!ここにもある」「目玉のお父さんみたい」「こんなにいっぱい!」等の声。

木が繁り、北アルプスの展望はあまり良くないが、久々の烏帽子の会。近況報告、最近登った山等おしゃべりに花が咲きました。

約1時間で一の曲輪山頂。予定より早くみんな頑張ったね。山つつじが残っていました。小休止、水分、おやつ補給。宮澤さんの三角点、岩についての自然観察会。

下山開始。空堀を抜けやや急な下りが続くがやがてゆるやかな九十九折になり、橋を渡ると大洞山との分岐車道に出ます。サントリー手前の橋のところでまたヘビに出会いました。トカゲもいたしポカポカさわやかな天気に、生物も気持ちがいいのかも・・・。

橋の下、乳川のそばで昼食。サントリーの水工場 へ移動。

サントリー天然水信濃の森工場は餓鬼岳が望める素晴らしい自然の中にあり、見学担当の方の案内で約1時間の行程。20年以上前に北アルプスに降った雨が伏流水として湧き出した水を使用。工場内のほとんどのラインが機械化され、人の手と目によるのは最後の重要な検査のみとのこと。エアーシャワ











ーを体験したり展望デッキで北アルプスの雄大な景観を眺めつつ天然水を試飲し、お 土産まで頂き至れり尽くせりでした。

その後広場にて総会を行い、解散しました。





《コースタイム》

西山神社駐車場 9:00~西山城址登山口 9:10~三の曲輪 9:25~9:30~二の曲輪 9:40~9:45~一の曲輪 10:00~10:40~下山大洞山分岐 11:10~昼食 11:25~12:00~サントリー水工場移動 12:20~工場見学 13:00~14:00~総会 14:00~14:50



サークル烏帽子の会へのお問い合わせは、事務局(電話:0261-23-6334)まで(サークル人数が多くなったため、烏帽子の会の新規募集はしておりません。)

ボランティアサークル

6月25日にボランティア研修で十日町市立里山科学館越後松之山「森の学校」キョロロを21名で訪ねました。

「森の学校」キョロロは、旧松之山町(新潟県)が建設した地域の里山をテーマとした自然民族科学館で、40mの塔を持った耐候性鋼材のさび色のインパクトのある建物です。

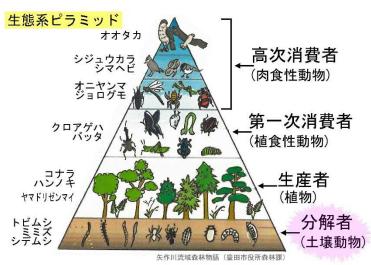
今回は小林学芸員にご案内をお願いして、午前中は館内を、午後は館の周辺と隣接

のブナの二次林、美人林をご案内いただきました。エントランスでは生きたヘビのお出迎えを受けます。展示はパネルやディスプレイを使ったもの、昆虫のですが、昆虫のなどで一般的ですが、だなとで一般的では各自が操作して昆虫を単にたがとれたり、標本も単にたがとなっており、生き生きとしてエシーではおいろいろなアクショとなっており、となっており、生き生きとしてエシーではよっておいるようになっていました。過去がとれるようになっていました。感満ですが、きちんと毎年更新されていた。

す。建物自体も数mの雪にすっぽりと埋もれても耐 えられ、大きな窓には水族館の水槽でも使われてい る厚いアクリル板が使われています。

午後はすぐ横のため池へ。アメリカザリガニの捕獲のためのわなにいろいろな生物が入っていて、豊かな生態系を感じます。広く広がるキョロロの森では保全や調査活動が市民参加で行われています。

美人林は、大正時代に木炭にするため一斉に伐採 したところ新しくブナが芽生えて形成されたもの です。ここでも小林さんから生育環境によるブナの



地表から50cmほどの深さの土壌中には 地上にいる動物の10倍にもなる細菌、カビなどの微生物からセンチュウ、トビムシなどの小型土壌動物、ミミズやヤスデなど大型土壌動物といった多様な生き物が暮らしている。互いに緩やかな共生関係を保ちながら土壌中の栄養塩を植物に利用されやすい形に変換している。逆に土壌生物は地上の植物から餌資源を受けるので、土壌機能は植物の多様性の影響を強く受ける。 金子信博(2009)





葉の大きさの違いや表面の地 衣類模様のこと、積もった落ち 葉が腐りにくく何層にも(ミル フィーユ)土壌表面を覆ってい ることなど、現物を示してガイ ドしていただきました。

今回の行程では山博の岡本 学芸員に同行いただき、道中、 土壌生物のお話を伺い向かい ました。このこともミルフィー ユや生態系の理解につながっ たと思います。

梅雨時としては天候に恵ま

れ、ブナ林でキョロロの友の会の方に気功や太極拳のプチ体験もさせていただきました。以下、皆さんのしたためた"短文"をバスの前の座席からつなげたものです。

ブナの根が 浅く広がる つゆ晴れの 光こぼれる ブナのガイドに 目をみはる キョロロに会いたい いつの日か

山と里 水といきもの つないでる ブナの森葉で 地面を作る ブナのもり とっぷりつかり いい気 持ち ぶな美林 我もめざすぞ

ブナの風 遠き昔の チロル帽 赤さびの館 そびえる美人林 山百合の つぼみ硬く 美人林 美人の森へ 私の道 へびいろいろ 大歓迎 パネルで見る 蝶の生態 ブナの落ち葉の ミルフィーユ

夏風に 緑葉鳴らせ 雪の里山 ゆきつばき ブナの林の ミルフィーユ キョロロの魅力 小林誠(*)

まっすぐに 伸びるブナ 越後のブナは 美人なり この地球(ほし)に 無駄な生き物 な かりけり 虫も枯葉も いのちをつなぐ (*)今回ご案内いただいた学芸員さんです

ボランティアサークルへのお問い合わせは、事務局(電話:0261-23-6334)まで

ゆきつばき通信編集室より —

今回は友の会 45 周年事業の三戸呂拓也さんを迎えてのイベントのご案内を中心にお届け しました。ぜひ多くの方に参加いただきたいと思います。

三戸呂さんとは、私事になりますが、わたくしの子供も参加していた活動を通してのお知り合いで、後に大町高校山岳部を皮切りにすっかり世界の山々で活躍されるようになりました。登山だけでも大変なのに、山岳カメラマンとして、それを追いかけたり先回りしたりして映像に収めていくのは並大抵ではないことは想像に難くないと思います。今回は、三戸呂さんが地元大町の皆さんと親しく交わりたいということで、ご案内のような企画となりました。どうぞ安全に行事が実施できるよう、皆さんにもご協力をお願いしたいと思います。

山岳博物館では8月8日より企画展「北安曇の自然と文化」展が始まります。北安曇の地域の気象、地質、動植物や歴史・文化財など、自然や歴史が紹介されます。

(丸山卓哉)

ゆきつばき通信 第196号

発行/大町山岳博物館友の会 2023年7月15日 〒398-0002 長野県大町市大町8056-1 大町山岳博物館内 山博友の会事務局 Tel/Fax 0261-23-6334

山博ページ http://www.omachi-sanpaku.com/ 友の会は、山博の情報発信のために山博ホームページの維持に協力しています

